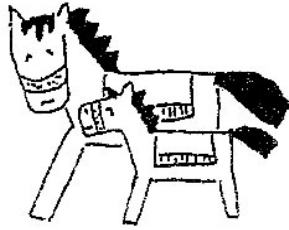


お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと



令和4年 9月 No. 334

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松第二保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<https://oumanooyako.com>



(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		9月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
9月 1日 15日	木	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	小さなお子様も楽しめるおはなし会です。 会が終わったらみんなで遊びましょう。
9月 2日 9日 30日	金	ヨガを楽しむ会 14:30～16:00	コロナにもならず、みんな元気に ヨガで体をほぐしています。
9月 5日 26日	月	体験保育 15:00～17:00	室内遊具も色々ありますので 遊びに来てください。
9月 16日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	10月16日(日)の矢崎先生の講演会の打ち合わせ をします。役割分担していますので、出席して下さい。
9月 17日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	画用紙マジックを作ります。 子育てに役立ちますのでどなたでもどうぞ。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)	育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活 入園・見学についての相談もどうぞ。
--	---



金子みすゞ童話全集③  
「空のかあさま・上」より

一つ、二つと水の輪は、  
一つあとから消えてゆく。

雲は消えずに映るけど、  
青い水、

いまの姿は、水すまし。  
お池のぬしに囚われの

魔法は泡と消えよもの  
水にななつの輪を描けば、

三つ水の流れ、一つ消える  
三つまわれど、みな消える

水すまし



☆今月の内容 — 看護実習生の記録より



## 看護実習生の記録より

高松市医師会看護専門学校 50 期生 31 名（うち男性 12 名）が 6 月 28 日～7 月 15 日まで実習に来ました。途中登園児のコロナ発病で、クラス閉鎖のため急遽実習クラスの変更や実習日数の変更などいろいろハプニングもありましたがどうにか無事におわりました。学生さんの記録から実習後の学びや気づきについてクラス別にご紹介します。 堀 侃子

### ◎ことり組（0 歳～1 歳）

遊びについて——乳児は音の出る玩具でひとり遊びをしたり、カラフルなビニールのトンネルの中に入りその空間にいることを楽しんでいました。乳児期は視覚や聴覚などの知覚機能がほぼ成熟し、見る、聞く、握るなどの能力を刺激する玩具が適しているため、乳児期の子供の興味関心に合った遊びを行うことで正常な発達が育まれていることが理解できた。

### ◎つくし組（1 歳～2 歳 11 月～3 月生まれ）

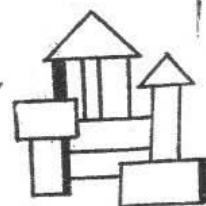
1 歳児のクラスで実習したが発達的にも会話が成立しないこともあるため、子どもにとっては関わり方が難しかった。しかし、会話だけがコミュニケーションではないため、おもちゃや絵本などの遊びを通しての関わりが必要だと学んだ。

また、個々の成長具合に合わせた援助が必要であるし同じ年齢でも個人差があるため、すべての年齢の特徴についても学びを深めていきたい。



### ◎はと組（1歳～2歳 4月～10月生まれ）

食事——アレルギーがある園児とない園児はテーブルを分け、配膳は必ず献立を確認し、アレルギー除去食が間違いなく配膳されているか保育士同士で確認していた。テーブルの高さに合わせて椅子を用意するなど環境を整えていた。食事は主にスプーン、手づかみであった。食事の内容によってスプーンですくいにくいものがあれば、保育士が食物の大きさを小さくしたり、スプーンに乗せてあげて園児が食べやすいよう工夫していた。



### ◎つぼみ青組（2歳～3歳）

子どもが食べやすいようにスプーンにおかずを乗せておいたり、適切な声かけをしたり最初から苦手なものは減らすなどして完食してもらうことが大切なことを学んだ。

子どもが先生の言うことをきちんと聞いていて丁寧に話しかけていたり、個々のできるレベルを把握して声かけをしていたり、子どもの目線に合わせて関わることを大切なことを学んだ。



### ◎つぼみ赤組（2歳～3歳）

昼寝——布団は少しずつ離して敷き、頭を互い違いにしていた。また、寝る場所を決める事でコロナ感染があった時、対処ができるよう配慮していた。寝かしつける時はカーテンをして部屋を少し暗くしたり、保育者が背中をトントンして入眠を促していた。昼寝をする事で体の疲れを癒やし、一旦リセットすることで再び元気に活動する事や安全、感染に配慮した援助の方法を学んだ。





### ◎さくら組（3歳～4歳）

服の着脱もいきなり手伝うのではなく、なるべく自分で行えるよう工夫することが子どもを援助する上で重要なことである。

帰りの会では、皆静かに話を聞き、タイミングを合わせて合掌しながらお礼の言葉が言えていた。自分に子どもが出来た時にはなるべく自分でできるよう声かけを行い、自分でできた時には褒めて、やる気を出せるように意識して子育てしていきたい。



### ◎ほし組（4歳～5歳）

水着を着用しての登園であるため、プールへの出発前に着衣の確認が入念に行われた。下着の上に水着を着ていたり、水着の前後が逆になっている例などもあり、子どもの能力に合わせて更衣の指導援助が行われた。



### ◎すみれ組（5歳～6歳）

「あいうえお教室」では一人ひとり手を挙げて意見を述べる事ができていた。自分の考えを主張できることはとても大切であるためきちんと答えを傾聴したり、間違いを発表しても、褒めたり学習意欲を高められる関わりが大切だと考えた。

